

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 30 日現在

機関番号：13201

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009～2011

課題番号：21520533

研究課題名（和文）「北方領土」における日本語教育のための教材開発研究

研究課題名（英文）A research of the teaching-materials development for the Japanese language education in the "Northern Territories" of Japan

研究代表者

副島健治（SOEJIMA KENJI）

富山大学・留学生センター・教授

研究者番号：80341618

研究成果の概要（和文）：周知の通り、日本とロシアとの間に、いわゆる「北方領土問題」という大きな問題が存在する。そのロシア(旧ソビエト連邦)の実効支配が続く「北方領土」の地において、ロシア人島民を対象とする日本語教育が、これまで実施されてきた。

本研究は、そこでの日本語教育の状況を調査、分析し、あり得べき日本語教育のファクターを構築して、実際に使用する日本語教科書を開発するというものであり、研究期間内においてほぼ達成された。

この教科書は、2011 年度からの当地での教育実践に用いられている。

研究成果の概要（英文）：As everyone knows, the big problem what is called of the "Northern Territories issue" exists between Japan and Russia. In the "Northern Territories" of Japan where the effective control of Russia (the old Soviet Union) continues, Japanese language education has been carried out for a Russian residents.

I investigate and analyze the situation of the Japanese language education of there, and this research builds the factor of suitable teaching materials, and actually develops the Japanese textbook. I attained mostly within the research period. Completion of a Japanese textbook (the trial version) is the largest result.

This textbook has been used for educational practice from 2011. And this continues to be used.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合 計
平成 21 年度	1700000	510000	2210000
平成 22 年度	600000	180000	780000
平成 23 年度	800000	240000	1040000
総 計	3100000	930000	4030000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：言語学
キーワード：教育工学・教材・教育メディア

1. 研究開始当初の背景

ロシアと日本の間には未解決のままになっている問題、すなわち「北方領土問題」がある。日本政府は一貫して「日本固有の領土である」という立場であるが、その一方でロシアの実効支配が続き、結果、「北方領土」は日本とロシアの主権という重大な国益が交錯する非常に特殊な状況におかれた地域となっている。終戦まで居住していた日本人は放逐され、この地域には新たに渡ってきたロシア人が居住しているというのが現状である。このような現状において、この問題の解決はたいへん困難な状況であると言わざるを得ない。

しかし、その一方で、日本とロシア(旧ソビエト連邦)との間に特例的に設定された「ビザなし交流」という一定の枠組みにおける双方向の渡航が認められている。その枠組みの一つである「四島交流」の一環として、1998年より「北方領土」の地におけるロシア人の島民たちを対象とした日本語教育が実現している。実施主体は日本の独立行政法人北方領土問題対策協会であるが、歯舞群島を除く3島(択捉島、国後島、色丹島)に2名ずつ日本語講師が派遣され、毎年短期間ながら日本語講座実施されている。

これまで、「北方領土」における日本語教育に用いる教材は、派遣された日本語講師の個人的な工夫と努力に委ねられており、あるときから市販の『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ』(スリーエーネットワーク)という日本語教材が用いられてきた。しかし、短期間ということと、冒頭に述べたように、日本語教育が行われているこの地域は、日本とロシアの主権、領有権をめぐる緊迫した状況もあり、特殊な

教育現場での日本語教育実践という点から、容易ではなく、派遣された講師に大きな負担がかかっていた。

そのような状況を踏まえて、当地で日本語教育を行う上で様々な配慮が必要であり、「北方領土」における日本語教育に特化した教材の必要性が認められた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、「北方領土」で行われている日本語教育の特殊性に配慮した教材のあり得べき形を検討し、それを具体化して、最も適した「北方領土」における日本語教育のための教科書を開発することである。

3. 研究の方法

- (1) これまで行われてきた「北方領土」における日本語教育の現状を調査、分析し、問題点を整理しどのような改善が必要であるかを検討する。「北方領土」の現地の状況を踏まえた配慮を検討する。
- (2) 「北方領土」における日本語教育の最も大きいファクターとして、実施主体である日本政府(独立行政法人北方領土問題対策協会)の考えについての配慮を検討する。
- (3) どのような日本語教育が期待されているか、現地の受講者(日本語学習者)に対してニーズ調査を行う。
- (4) (1)(2)(3)を踏まえ、「北方領土」における日本語教育のための教科書開発に配慮しなければならないファクターを整

理する。

- (5) 日本語教科書のおおよその姿、イメージを構築する。
- (6) 部分的にパイロット的に実施し、データを取る。
- (7) 「試用版」を作成する。

さらに、研究期間終了以降も、今後の課題として、「試用版」を実際に現地で使用して行き、毎年度改善を継続して進めていかなければならない。

4. 研究成果

2009 年から開始した本研究は、上述のように「北方領土」における日本語教育の特殊な状況を鑑み、受講者のニーズ調査などをもとにして、必要な配慮を整理し、適する教材のイメージを具体化して行った。そして、2011 年 6 月には教科書(試用版)を完成させることができ、それは独立行政法人北方領土問題対策協会が実施する 2011 年度の「北方四島交流事業」すなわち「ビザなし交流」の一環である日本語講師派遣事業において実際に使用され、今後も継続して使用されていくことになっている。これが本研究の当初のゴールであり、最大の成果といえる。

「研究期間」の終了後も、さらに毎年度の使用後のデータをとりながら、さらに教材の改善を行っていく必要があるが、これは今後の課題である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

- ① 副島健治、鈴木寛子、北岡千夏、「「北方領土」における日本語教育 — その教材開発の試み —」『比較文化研究』査読有、

No. 102、2012、掲載予定(全 11 頁、ページの配置 未定)。

- ② 副島健治、鈴木寛子、北岡千夏、「「北方四島」における日本語教育 — その教材開発の試み —」『跨文化交際の語教育研究②異文化コミュニケーションのための日本語教育』査読有、2011、中国高等教育出版社、pp306-307。

- ③ 副島健治、奥村隆信、青木由香、岡田有美子、粕谷謙治、須加春恵、林宏美、増山満美子、宮田妙子、「「北方領土」における日本語教育のための教材開発」『2010 世界日本語教育大会【論文集・予稿集】』(CD)(国立政治大学・外国語文学院)、査読有、2010、大新書局、台湾。(CD-Rom 収録). No.518。

〔学会発表〕(計 3 件)

- ① 副島健治、鈴木寛子、北岡千夏、「「北方領土」における日本語教育 — その教材開発の試み —」、2011 世界日本語教育研究大会(ICJLE 2011 CHINA) International Conference on Japanese Language Education、2011. 8. 19、(天津外国語大学)
- ② 副島健治、奥村隆信、青木由香、岡田有美子、粕谷謙治、須加春恵、林宏美、増山満美子、宮田妙子、「「北方領土」における日本語教育のための教材開発」、2010 年世界日本語教育大会(台湾)(2010 ICJLE International Conference on Japanese Language Education)、2010. 8. 1、(台湾政治大学)
- ③ 副島健治、岡田有美子、「「北方領土」における日本語教育のための教材開発」、2009 年度豪州日本研究大会・日本語教育国際研究大会(JSAA-ICJLE2009)、(ニューサウスウェールズ大学)

〔その他〕(計 1 件)

教科書

- ① 副島健治、鈴木寛子、北岡千夏、岡田有美子、『「北方領土」における日本語教育のための日本語教科書』(仮題)(試用版)、2011、(独立行政法人)北方領土問題対策協会

6. 研究組織

(1) 研究代表者

副島 健治 (SOEJIMA KENJI)
富山大学・留学生センター・教授
研究者番号：80341618

(2) 主な研究協力者

北岡 千夏 (KITAOKA CHINATSU)
大阪大学・外国語学部・非常勤講師
鈴木 寛子 (SUZUKI HIROKO)
東北大学・高等教育開発推進センター・非常勤講師